

福岡県米麦大豆生育情報

平成30年4月23日
福岡県農林業総合試験場

麦類の生育概況と成熟期予測

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

| | 3月20日～4月22日 (34日間) | | | | |
|--------|--------------------|------|------|------|------|
| | 平均気温 | 最高気温 | 最低気温 | 日照時間 | 降水量 |
| | ℃ | ℃ | ℃ | hr | mm |
| 本年 | 14.6 | 21.0 | 9.0 | 249 | 137 |
| 前年差(比) | +1.1 | +2.7 | -0.3 | 153% | 60% |
| 平年差(比) | +2.0 | +3.5 | +1.2 | 137% | 100% |

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦類の生育と今後の予測 [小麦:11月20日播種、大麦:11月24日播種]

3月20日～4月22日の平均気温は平年より2.0℃高く、日照時間は37%多く、降水量は平年並みであった。

出穂期は、平年に比べ小麦は2～3日、大麦は1日～2日遅かった。穂数は、農産部では、小麦、大麦ともに平年並～10%多く、筑後分場では、シロガネコムギで10%少なく、ラー麦(ちくしW2号)で8%多く、大麦で21%少なかった。4月23日以降の気温が平年並で経過した場合、成熟期は、小麦、大麦ともに平年並と予測される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

今後の降雨が麦類の収量や品質に及ぼす影響は大きく、排水対策が重要である。排水溝の溝さらえを行い、排水口を整備して地表水の排水を図る。

(2) 赤かび病防除

赤かび病は、麦類の収量、品質に対する影響が大きく、防除は必須作業である。赤かび病に弱い品種や、降雨や曇天が続き多発生が予想される場合には、第1回防除の7～10日後を目安に防除を行う。具体的な防除薬剤は、普通作病虫害・雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(3) 穂揃期追肥

子実のタンパク質含有率12%以上を達成するため、ラー麦(ちくしW2号)とミナミノカオリは、穂揃期追肥を必ず実施する。穂揃期追肥は、10a当たり窒素量5kgを穂揃期～穂揃期後7日頃に施用する。チクゴイヅミ等の日本めん用品種についても、地力が低い地域や葉色低下が著しい場合には、穂揃期追肥を10a当たり窒素量2kg程度施用する。

(4) 適期収穫

共乾施設の荷受けについて、運営委員会等を早めに開催して荷受計画を作成する。

早刈りは、損傷粒の増加や品質低下を生じやすく、特にビール大麦では発芽率の低下や剥皮の発生が多くなる場合があるので、穀粒水分が25%以下になってから直ちに収穫を行う。

4. 農林業総合試験場における調査成績

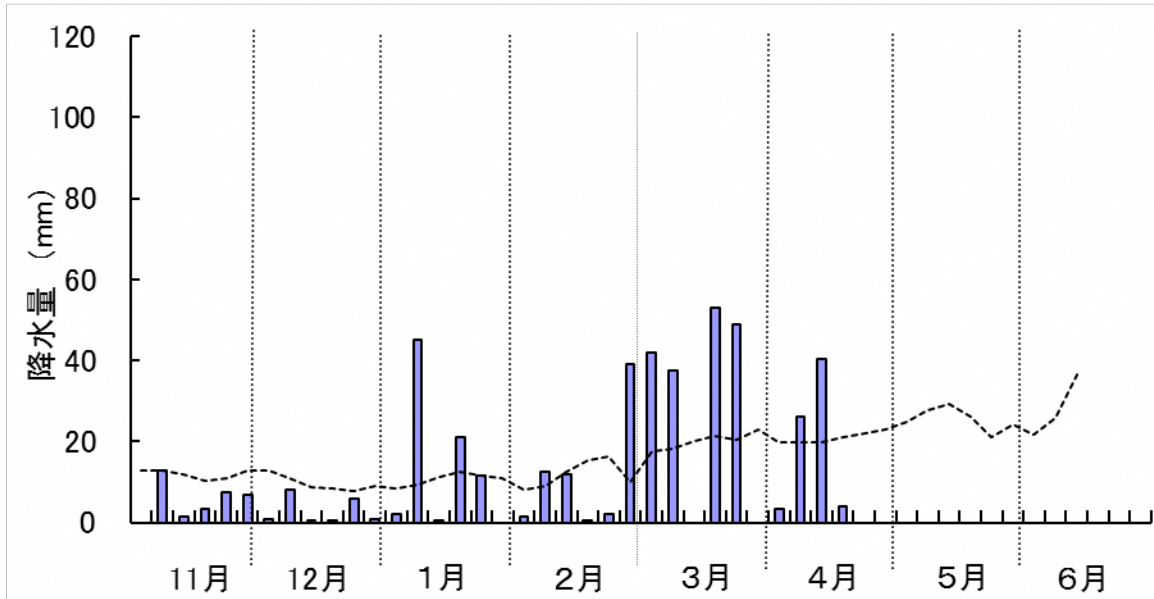
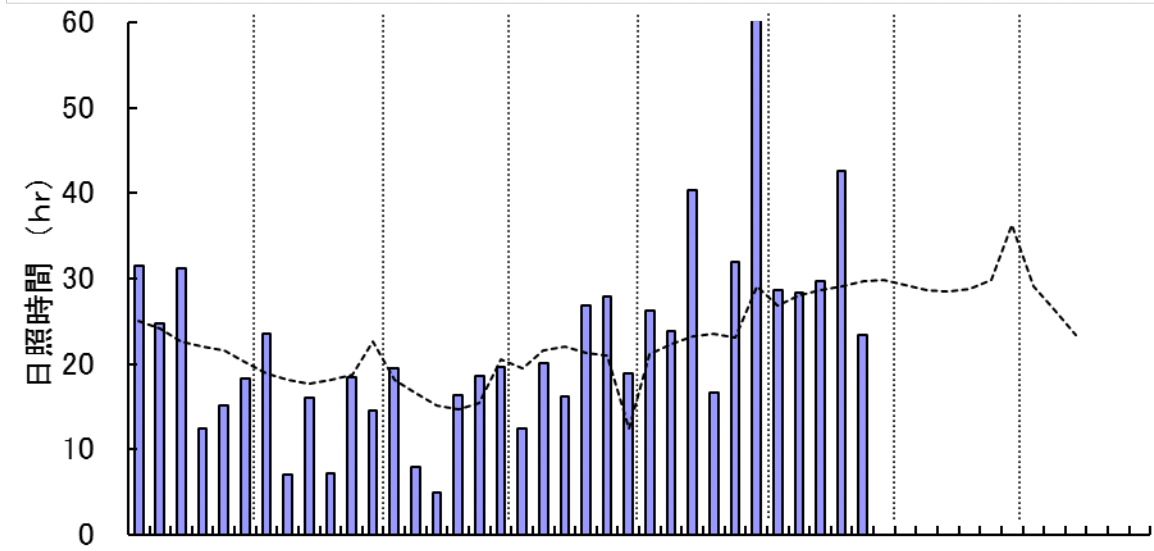
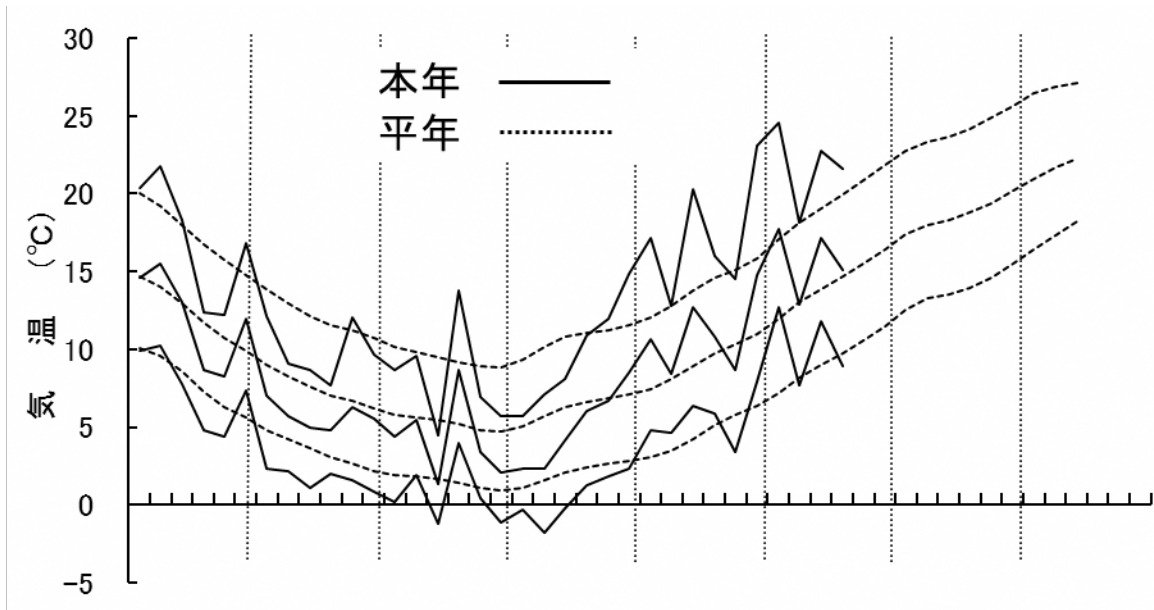
| 調査場所 | 播種期 月.日 | 品種名 | 年次 | 出穂期 月/日 | 開花期 月/日 | 予想成熟期 月/日 | 穂数 本/m ² |
|-------|------------|--------|---------|------------|------------|--------------|------------------------|
| 農産部 | 11.20 | チゴイヌミ | 本年 | 4/12 | 4/18 | 5/30 | 492 |
| | | | 前年比(差) | +6 | +2 | +3 | 98 % |
| | | | 平年比(差) | +3 | -2 | ±0 | 101 % |
| | 11.24 | ほうしゅん | 本年 | 4/10 | — | 5/19 | 523 |
| | | | 前年比(差) | +6 | — | +3 | 106 % |
| | | | 平年比(差) | +1 | — | ±0 | 109 % |
| 筑後分場 | 11.20 | シカネギ | 本年 | 4/8 | 4/16 | 5/26 | 494 |
| | | | 前年比(差) | +1 | ±0 | +2 | 101 % |
| | | | 平年比(差) | +2 | ±0 | ±0 | 90 % |
| | 11.24 | はるしずく | 本年 | 4/7 | 4/15 | 5/28 | 468 |
| | | | 前年比(差) | +2 | ±0 | +3 | 116 % |
| | | | 前9年比(差) | +2 | +1 | +1 | 108 % |
| 11.24 | はるしずく | 本年 | 4/5 | — | 5/18 | 475 | |
| | | 前年比(差) | +5 | — | +4 | 91 % | |
| | | 平年比(差) | +2 | — | ±0 | 79 % | |

注1) 平年値はH19～28年播の平均値。

2) 予想成熟期は4月23日以降の気温が平年並で推移した場合の予測値で、今後の平均気温が1℃上下すると成熟期は±1～2日変動する。予測法は福岡県麦栽培技術指針を参照。

3) 穂数は、農産部では全穂数、筑後分場では有効穂数で示した。

4) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：平成29年11月～平成30年4月)